

今日のトピック 最近の指標から見る米国経済(2015年4月) 年後半にかけて年率3%近くの成長へ

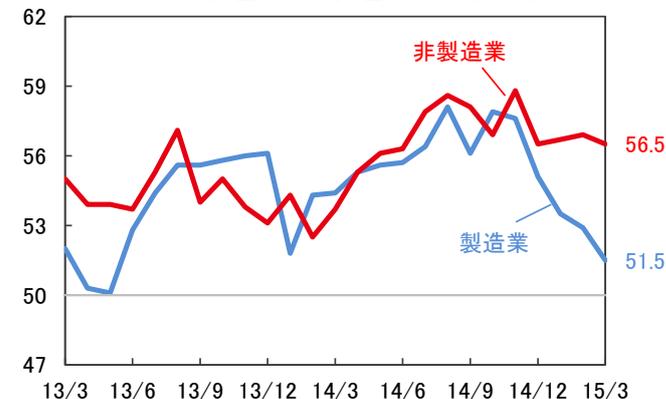
ポイント1 企業景況感是非製造業が堅調

製造業は、米ドル高が影響し低下

■3月のISM製造業景況感指数は、総合指数が51.5ポイントと5カ月連続で低下したものの、好悪の判断の境目となる50を27カ月連続して上回りました。3月のISM非製造業景況感指数は、総合指数が56.5ポイントと高水準を維持しました。

■内訳を見ると、製造業では新規受注や輸出が低下しており、米ドル高の影響などから、製造業の活動が鈍化していることを示しています。一方、非製造業では雇用や新規受注が高水準を維持しています。景気は消費を中心に底堅さが持続していると見られます。

(ポイント) ISM製造業・非製造業景況感指数



(注) データの期間は2013年3月～2015年3月。(年/月)
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

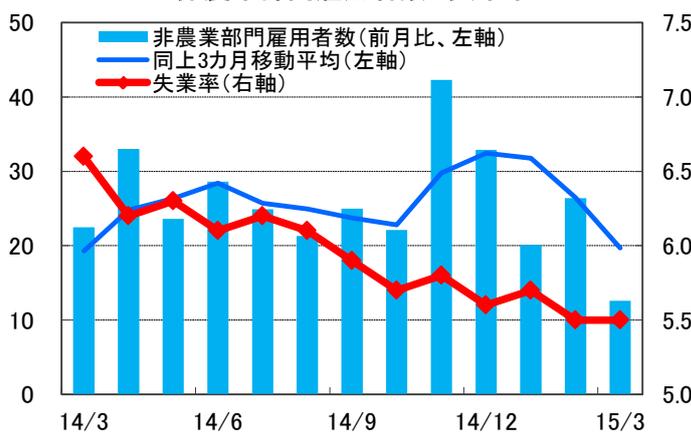
ポイント2 雇用は予想を下回る

失業率は横ばい

■非農業部門雇用者数は前月比12.6万人増と市場予想(ブルームバーグ集計)の同24.5万人増を下回りました。寒波などの天候要因や西海岸での港湾ストなどの一時的な要因の影響が大きく、雇用の改善傾向は持続していると見られます。

■3月の失業率は5.5%と前月から横ばいで、賃金上昇率は前年同月比+2.1%と2%を挟んで概ね横ばい圏で推移しています。

(万人) 非農業部門雇用者数と失業率 (%)



(注) データの期間は2014年3月～2015年3月。(年/月)
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 GDP成長率は年後半にかけて緩やかに加速、利上げペースは緩やか

■製造業は米ドル高などの影響から足元勢いを欠くものの、雇用の改善やガソリン安の恩恵を受ける家計の購買力向上から、消費は底堅い見込みです。GDP成長率は年後半にかけて年率3%近くが見込まれます。物価上昇率については、物価見通しに影響する賃金の上昇に市場は注目しています。

■3月のFOMCの議事要旨では、利上げ開始後のペースが緩やかとなると大半の委員が見ています。FRBは雇用や物価の動向を引き続き注視すると見られますが、物価の上昇が緩やかであることから、利上げペースは緩やかなものと見込まれます。

ここも チェック!

2015年04月06日 米国の雇用統計(2015年3月) 雇用者数は予想を下回る伸びに

2015年04月02日 米経済指標を受け長期金利が低下 予想を下回る内容に早期利上げ観測が後退

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。